

令和 3 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

令和3年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

- 1 授業改善等への取組
- 2 道徳教育の充実(特別の教科「道徳」における、主体的・対話的で深い学びの推進)

学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		3	3
取組	成果	課題と改善策	
○「授業改善3つの視点」の学校全体での推進・「参加する授業」、「学び合う授業」を行う。 ・めあての提示と授業のまとめとしての各時間の振り返りを行う。 ○朝学習・終学習・北中チャレンジと家庭学習のつながりを重視した取組の推進 ○ICT機器の授業での活用促進 ・オンライン授業を取り入れたハイブリッド授業の実施する。 ○中学校給食を通じた食育の推進 ○リズムジャンプの実施	○すべての授業において「めあて」の提示はできるようにになった。 ○朝学習の実施及び確認テストの実施は通年順調にできた。 ○ペア学習やタブレットを活用した意見交流など多様な協同的学習を行った。 ○オンライン授業(コロナ不安、学級閉鎖時の双方で実施)が定着した。 ○中学校給食の実施により、食の安全や栄養管理についての意識が高まった。 ○リズムジャンプの実施によりリズム感と運動能力の向上に向けた取組ができた。	○ゴールイメージを明確に持ったうえでの「めあて」の提示と生徒が学びたくなる「課題」の設定について研究を進める。 ○授業デザインシートについて、学校全体での活用を進める。 ○ペアやグループによる協同学習を学力向上に結び付ける研究を行う(コラボするタイムの導入)。 ○オンライン授業における双方向の学習形態への工夫を行う。 ○朝学習、終学習を家庭学習の定着につなげる工夫を行う。	
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		3	3
取組	成果	課題と改善策	
○道徳教育の充実 ・道徳における、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ・「道徳科の教科書」(29h)及び「心かがやく」(6h)における本校での実践事例を積み上げる。 ○生徒指導・生徒支援・不登校対策等について【共通認識】 ・組織対応を行うとともに、生徒に対して、今日一日の生活を納得させて帰す。 ・温かさの中に毅然とした厳しさのある生徒指導に努める。 ○生徒理解の推進 ○生徒の居場所づくりの推進(関係機関や地域との連携を含む)	○道徳教育について、生徒の思考が進む主発問設定と主発問を広げていく授業展開についての研究を実施した。 ○生徒指導・支援について、生徒の個人理解に基づいた対応を行った。 ○生徒の居場所づくりについて、本校の別室と「ほっとすてっぷ」等の活用により、教室以外の居場所づくりを推進できた。	○道徳教育の推進 ・正解が1つではない様々な課題について、多くの仲間と議論を重ね探求し、自分なりの答えを見つけたそうとする力を育む。 ・それらの活動を通じて、生きて働く道徳的資質・能力を育成する。 ○生徒指導・支援について ・教員が個々の生徒理解についてのスキルを高めるよう研修等に取り組む。 ・関係機関とのより良い連携が実現するよう実践に努める。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	2.5
取組	成果	課題と改善策	
○北中だより「新樹」の発行と地域の掲示板への掲示 ○学校ホームページの定期的更新と家庭・地域への発信 ○PTCAクリーン運動の実施 ○校務分掌の平準化 ○取組み内容の見直しによる、校務のスリム化	○北中だより「新樹」の地域への発信や学校ホームページの定期的更新(週2回以上)は実施できた。 ○従来より行ってきた施策についての検証・見直しをおこない、スクラップや発展的な改編を行った(品格教育の役割を道徳教育に移譲する、アセス・SEL・コグトシなど複線的に行われてきた支援策の見直し等)。 ○PTCAクリーン運動は2回計画をしたが、新型コロナウイルスの影響により1回のみの実施となった。	○業務改善に努めたが、教員の業務量の縮減は不十分であった。 ○今後もICTの活用や共有フォルダの活用により、効率よく業務を遂行できる環境の整備を進めていく。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
取組	成果	課題と改善策	
○登下校の安全確認及び見守りの実施 ○自転車安全教室の実施 ○スマホ安全教室の実施 ○スマホルール作りの実施 ○地震及び津波の発生を想定した防災訓練の実施	○登下校の見守りは、教員の当番制の実施より日常的に行った。 ○自転車安全教室、スマホ安全教室、デートDVの講演会、保護司会との連携した事業(挨拶運動、薬物乱用防止教室等)は計画通り実施できた。 ○生徒会がスマホサミットに参加し、本校におけるスマホ3か条の制定を行った。 ○地震及び津波を想定した避難訓練では、全生徒が適切な安全確保と素早い避難行動をすることができた。	○SNSの適切な利用をはじめとする情報モラル教育については、生徒自身が考える機会を増やしていく。 ○関係機関と連携した安全教育等は、引き続き実施していく。 ○防災訓練について、より実践的で緊迫感のある訓練になるよう、場面設定の工夫を行う。 ○災害時帰宅グループや帰宅ルートの確認を再度行い、安全に帰宅するための準備を行う。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
			3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
学校教育目標 ○自ら進んで授業や家庭学習に取り組む生徒の育成 ○自他共に認め合いながら命を大切にする生徒の育成 ○場面に応じた適切な判断をし、行動できる生徒の育成	○学校教育目標を具現化するための授業改善、学習習慣の定着、道德教育の充実、キャリア教育の推進など様々な課題について取り組んできた。 ○中学校給食の実施にあたっては、「場面に応じた適切な判断をし、行動できる生徒の育成」に力点を置き、適切な実施に向けた取組を実施した。 ○令和4年度に向けて教育目標の発展的見直しを行った。特に「社会貢献」の視点を重視した。	令和4年度の教育目標 ○自ら学び、自他の生命を大切にする生徒の育成 ○社会に貢献できる生徒の育成	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
			3
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
○研究テーマを「非定型問題を取り入れた「わかる学力」の育成」と設定して取り組んだ。 ○「授業デザイン 3つの視点」に基づく授業改善を推進した。	○「授業デザイン 3つの視点」の重点実践校として取り組んだこともあり、教員の共通理解は進んでいる。 ○「めあて」の提示は、ほぼすべての授業において実施できた。 ○「振りかえり」の実施は、まだまだ不十分ではあるものの、教員は課題意識を持ちながら日々実践に努めている。	○令和4年度の研究テーマは「主体的に学習できる“課題”の工夫」と設定をする。 ・ゴールイメージを持った単元のデザインについて研究を進める。 ・めあてを実現するための課題の設定について研究を進める。	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業を含め、効果的な運用を期待したい。 ・授業改善にとても熱心に取り組まれているのが素晴らしいと思います。 ・家庭学習を定着させることが重要なので、宿題や北中チャレンジを更に活用してほしい。 	3.5
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育を活かし、思いやりを持てる育成を期待します。 	3.5
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響が及んでいるが、何らかの方策を考慮願いたい。 ・学校ホームページをどの程度の保護者が見ているのか、知る必要があると思う。 ・学校ホームページへの掲載は、行事だけでなく、日常の授業についての紹介もしてもいいのではないか。 	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域も含めての防災意識の向上を期待します。 ・大きな津波が発生した時に、どこに避難をするのか訓練をする必要があるのではないか。 	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であるが、様々な教育活動が実現できるよう工夫願いたい。 	3.5
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱心な取り組みに期待しております。 	3.5
<p>■</p>	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	<p>評価Ⅳ</p>
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B